

はじめに

この報告書は、平成 23 年度京都大学防災研究所一般研究集会 23K-07「第 7 回南アジアにおける自然環境と人間活動に関する研究集会－インド亜大陸・インドシナの自然災害と人間活動－」をまとめたものです。

バングラデシュで 1 万人を超える死者を出した 2007 年のサイクロン Sidr、ミャンマーで死者 10 万人以上となった 2008 年のサイクロン Nargis など、当地域では雨期の洪水とその前後のサイクロンや竜巻などのメソ気象擾乱、乾期の干ばつなどの気象災害が頻発し大きな被害をもたらしています。本研究集会は、インド亜大陸東部とインドシナを対象とし、気候・気象学を基礎として、この地域で大きな割合を占める農村の動態・開発や、感染症の発生流行などの人間活動に密接に関係する話題を取り上げ、総合的に討論することによって、災害の軽減・防止の方策を探ることを目的として開催されました。

本集会を開催することで、気象学や気候学、水文学、土木工学、農学など、アジアにおける気象災害に関する分野の研究者間で情報交換が促進され、台風や洪水・干ばつなどの災害に対するアジア地域での総合的な防災研究の進展、今後の災害低減対策の一層の充実に貢献することが期待できます。

農村関係の発表では、インドアッサムの人口動態、ブータンの土地利用、ミャンマーとバングラデシュの減災対策の比較、ハティア島の海岸浸食、ベンガルデルタの地形環境、などの発表がありました。

感染症関係では、ラオスのタイ肝吸虫症やバングラデシュでのフィラリア症に関する生活環境、ダッカの下痢症に対するグローバル・ローカルな気象水文環境など、感染症の発生流行に対する環境の評価の研究報告がありました。

気候・気象関係では、バングラデシュの雨期の開始、ミャンマーの雨期に対する ENSO の影響、ベトナムの熱帯性低気圧の降雨、フィリピンの極端降雨現象など、アジアモンスーン地域の降雨に関する研究報告がありました。また、南アジアの気候・水文観測の最近の方法の紹介、バングラデシュの竜巻対策の紹介がありました。

最後に、MAHASRI、AMY、GRENE など、現在進められている研究プロジェクトの紹介と将来展望についてのまとめがありました。

このように、分野の違う研究者が集まることにより、各分野の最近の話題について議論をする機会が得られ、将来の分野横断的な研究のきっかけとなることを期待します。

2012 年 2 月

研究代表者

松本 淳

京都大学 防災研究所一般共同研究集会 23K-07
「第7回南アジアにおける自然環境と人間活動に関する研究集会
ーインド亜大陸東部・インドシナの自然災害と人間活動ー」

共催：首都大学東京、総合地球環境学研究所、
京都大学東南アジア研究所、京都大学生存基盤科学研究ユニット、

とき：2009年2月4日(土)13:20ー5日(日)13:00

ところ：京都大学防災研究所大会議室 S519D(京都大学宇治キャンパス)

この文書の最後の案内をご参照ください。

プログラム

2月4日(土)

13:20-13:30 趣旨説明

松本 淳(首都大学東京)

セッション 1

座長 寺尾 徹(香川大学)

13:30 センサスデータでみるインド・アッサム州ブラマプトラ川渓谷の村落分布と人口動態

○浅田晴久(首都大学東京)

13:50 ブータンの地域区分について(仮題)

○内田晴夫((独)農業・食品産業技術総合研究機構・四国研究センター)・安藤和雄

14:10 ミャンマーとバングラデシュの NGO 連携によるサイクロン減災プログラムのための相互啓発実践型地域研究

○安藤和雄(京都大学)

14:30 The onset of summer monsoon over Bangladesh

○Roxana Hoque (Tokyo Metropolitan University)

14:50 バングラデシュにおける 2011 年 5~8 月の水蒸気変動と気象擾乱の関係

○村田文絵(高知大学)・寺尾 徹・田中幹人・田部井隆雄・林 泰一

15:10 Analysis of Severe Convective Storms over Bangladesh and adjoining India between 2000 and 2011 using JRA-25 reanalysis data

○Fatima Akter(Kyoto University)

15:30 休憩

セッション2

座長 村田文絵(高知大学)

15:40 The Influence of ENSO on the summer monsoon precipitation in Myanmar.

○Nwe Ni Lwin Htun(Tokyo Metropolitan University)

16:00 Contribution of tropical cyclones to rainfall in the Vietnam Coastal Region

○Nguyen Thi Hoang Ahn(Tokyo Metropolitan University)

16:20 Past and recent extreme rainfall events in the Philippines

○Marcelino Q. Villafuerte II(Tokyo Metropolitan University)

16:40 2011 年タイ洪水とモンスーンの環境場について

○木口雅司(東京大学)・中村晋一郎・小森大輔・沖一雄・沖大幹

17:00 南アジアにおける気象・水文観測データの収集方法と有効性

— 観測において利用可能な各種通信手段とそれらの比較 — ○林 夕路(東洋電子工業株)

17:20 南アジアの気象観測、気象災害の研究の現状と将来展望

○林 泰一(京都大学)

18:00 懇親会 (レストランきはだ)

2月5日

セッション3

座長 浅田晴久(首都大学東京)

09:30 コロナ画像を用いたバングラデシュ・ハティア島の海岸侵食の推定

○東城文柄(総合地球環境学研究所)

09:50 ベンガル・デルタ中央部における約 1300 年前の地形環境の安定期と土地開発

○宮本真二(琵琶湖博物館)・内田晴夫・安藤和雄・
アバニィ クマール バガバティ・ムハマッド セリム

10:10 ラオス南部・ラハナム地区におけるタイ肝吸虫症と生態環境(仮)

○神松幸弘(京都大学)

10:30 バングラデシュのフィラリア症重症化に関わる生活環境・職業性因子

○森岡 翠(筑波大学)・我妻ゆき子・門司和彦

10:50 全球・南アジア・バングラデシュの気象水文環境変動とダッカの下痢症

○寺尾 徹(香川大学)・林 泰一・A. S. G. Faruque・我妻ゆき子

11:10-11:20 休憩

セッション4

座長 東城文柄(総合地球環境学研究所)

11:20 バングラデシュの竜巻常襲地帯における被害低減のための活動

○林泰一(京都大学), 田村幸雄, 角崎悦子, Saidur Rahman,
小野裕一, 上田和孝, Elizabeth English, 山根悠介

11:40 MAHASRI, AMY and GRENE Projects

○松本 淳(首都大学東京)

12:00 閉会の挨拶

懇親会について

日時 2月4日18時から

場所 レストランきはだ

一般 4,000円、学生 2,000円

会場の案内図

京都大学宇治構内は、JR 奈良線 黄檗駅から徒歩5分、または京阪黄檗駅から徒歩10分。

南門から入って、生存圏研究所の入口から入ってください。2月4、5日は開錠しています。開いていないときは、守衛所に「研究集会に参加する」旨、話して頂ければ、開けてくれます。または、携帯電話0909 2551107にご連絡下さい。エレベータに乗り5階に上がってください。エレベータを下りて、左に50m程で左手に会場(S519D)に着きます。守衛所で会場の案内をお願いしています。

